

(様式2)

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200299	
法人名	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会	
事業所名	グループホーム新組 西館	
所在地	新潟県長岡市新組町1890番地	
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/15/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会	
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階	
訪問調査日	平成24年12月14日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは法人内で7か所目のグループホームとして平成21年8月に開設しました。管勝本体施設は介護老人福祉施設中之島であり、職員研修体制は合同での開催となっており様々な職種での連携を図っている。新組施設はグループホームとデイホームだけの小規模であるため、本体施設の主任相談員や理学療法士から会議やカンファレンスなどでアドバイスをもらい協力体制を整えている。また、中之島職員(相談員、主任など)から毎週昼食会に足を運んでもらい、ご利用者の様子やホームの雰囲気などをみて意見やアドバイスをもらっている。今年度は、ご利用者の外出支援や活動を通じてご利用者の楽しみを日常で取り入れていくこと、その様子をホームに掲示してご利用者、面会の方々にも楽しんでいただきご家族へはお便りでお知らせするなど、ホームからの情報発信を大事にしてきました。地域とのつながりや協力体制はこれからも継続して行って行かなくてはならないと感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営母体は、長岡地域で先駆的に高齢者介護や認知症ケアの事業を展開してきた社会福祉法人である。ホームの近くには本体施設である特別養護老人ホームがあり、施設長や相談員が訪れて利用者や昼食を共にしながら職員やホームの様子を把握するとともに、日々の業務内容や利用者一人ひとりの様子が報告され、助言を受けたり相談しやすい仕組みとなっている。

ホームの窓からは周辺の田園風景と遠く東山連峰が望め、季節の移り変わりを感じながら生活することができる自然豊かな環境にある。ホーム内は大きな窓からの採光で明るく清潔感があり、利用者が快適に過ごせるよう細かいところまで配慮が行き届いている。

管理者を含めて職員間の意思疎通がきちんと図られており、職員はホームの理念をよく理解し、利用者一人ひとりの特徴を把握してその人らしい生活が送れるように支援することを心掛けている。

開設から3年が経過し、地域の祭りや地区の行事に参加したり、地区の方からの声かけも増えてきて地域とのつながりも徐々に深くなってきており、防災等の協力体制も出来つつある。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>リビングに理念を掲げ、いつでも職員の目に入るようにしている。いつでも意識して、理念の共有実践につながっている。</p>	<p>事業所の理念は、開設時に法人理念を基にして職員で話し合い作ったものである。現在でも、日々のミーティングや毎月の会議の中で折に触れて、理念を具体化して話し合い、実践につなげている。異動や新規採用で入った新しい職員にも管理者が最初に理念の意味を説明している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の祭りなど子供神輿が施設にきたり、地域の方に運営推進会議に出席いただくなど、日頃から交流している。</p>	<p>地域の方から声をかけてもらって子供神輿がホームに来たり、賽の神のお祭りの手伝いに職員が出向いたり、また、地域の方から野菜等を頂くなど、地道に地域への働きかけを行っていることで、年々地域との付き合いが深まっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>広報誌の発行や、運営推進会議を通しての説明報告を行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員の方々にご利用者の日頃の様子(活動状況、事故報告、ご家族からの依頼内容など)をお伝えしており、昼食会や避難訓練にも参加して頂き、実際の様子から気付くことをご意見としていただいている。</p>	<p>運営推進会議は利用者及び家族代表、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員及び市の担当者の参加を得て開催している。あらかじめ年間予定を決め、事業所の取り組み状況や利用者の様子を伝えるほか、時には昼食会や行事に参加してもらっている。会議での話し合いが避難訓練を地域の方々と一緒に行うきっかけとなった。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域の方や市の職員から運営推進会議に出席していただき、協力関係を築くように取り組んでいる。市の介護相談員に2ヶ月に1回来ていただきサービスの質の向上に努めている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議に出席してもらったり、普段から介護保険や事業所に関連する事項の情報提供を密に行っている。また、2ヶ月に1回訪問する市の介護相談員を通しても連携が図られている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内でも研修会があり、正しく学ぶ機会を持っている。玄関の施錠はせず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本体施設を中心に法人で年間を通じて計画的に研修が行われており、職員が参加している。毎月のミーティングの中でも職員の言葉や態度に不適切なものがないかどうか話し合っている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、虐待防止への理解を深めるとともに、注意をはらい、虐待を見過ごさずことなく、防止に努めている。	法人で年間を通じて計画的に行われている研修に職員が参加している。毎月のミーティングや日々のミーティングでも、不適切な対応がないか、職員同士で互いに気付いたことを話し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修会で学ぶ機会はあるが現在必要としている人がいないため、必要に応じて活用できるよう支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に書面にしたものを提示し、ご家族、ご本人に十分に説明し理解、納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族から参加していただき、意見をうかがったり、市の介護相談員から利用者の意見要望をうかがったり、意見箱を設置したりしている。	運営推進会議や面会時に家族から意見を聞くよう努めている。市の介護相談員を通じて利用者の声を聞いたり、職員が日々の関わりの中で聞いたことなどを大切にして運営や日々の支援に活かしている。平成24年度秋に実施した利用者や家族に対するアンケート調査の結果は今後の運営に活用する予定である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時や月1回の全体ミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また、提案や意見は管轄管理者へも報告を行っている。	日々のミーティングや毎月の職員会議など、運営に関する話し合いを行う機会を設けている。また、本体施設の施設長や相談員が毎週ホームを訪れており、職員の相談や意見を聞いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	適宜現場の状況を確認し、職員や職場環境等の状況を把握して環境、条件の整備に努めている。職員一人一人の状況に応じた勤務時間等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体施設での研修会の他、法人内の研修会や他の研修会への参加の機会を設けている。また、資格取得への支援や自己学習への支援の機会の確保にも努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのグループホームあ認知症専門棟の職員で月1回会議を設け、情報交換を行っている。また、法人内グループホーム間での交換研修や講義研修を行いサービスの向上を目指している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族、各情報機関から情報をもらい、ご本人、ご家族との面談を通じて生活状況を把握すつよう努めている。又、日頃の様子を見ながら職員同士の意見を集めプランに反映させ、安心して過ごしていただくよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談し、生活状況、要望、不安などご家族の意見をお聞きし、施設の状況、雰囲気をお伝えし、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のお話から、必要とした支援を見極め、各情報機関、法人内施設と連携を取って対応するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何もかもこちらで行うのではなく、ご本人の意思決定を促すよう声かけを工夫し、また、同じ作業や時間を共有し関係を築くようにしている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を大切に、共に支えていく関係作りに努めている。また、職員側からの一方的な報告だけでなく、長年一緒に暮らしたご家族から情報を得るように努めている。	入居時には家族にセンター方式のアセスメントシートを記入してもらい、面会時に本人の様子を伝えて本人に関する情報を共有している。受診の支援や利用者との外出をお願いしたり、家族からも本人にどのような生活を送ってほしいか聞くなど、家族とともに本人を支えていく関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>町内のなじみの方と日帰り旅行に参加していただいたり、面会に来られた際には環境作りに努めたり、近隣の方に会いに行くこともある。また、なじみの方との写真を掲示し、関係が途切れないように努めている。</p>	<p>入居時や日々の関わりを通して、一人ひとりの馴染みの場や人などの把握に努めている。外出時に馴染みの場所に行ったり、家族や知り合いに面会をお願いして一緒に外出してもらえるように依頼するなど、本人の馴染みの人や場を大切にしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食積の配慮や、職員が間に入り、お互いにかかわりあえるような支援に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用終了後も、管轄特養への入所のあき他へ面会したり、ご家族がグループホーム入居者に会いに来て下さったり関係の継続が図られている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアプラン見直し時以外にも、日々の関わりやご利用者とのコミュニケーションの中から意向等を確認してしている。はっきりと意思表示されない方は日々の関わりや言動の中から、少しでも意向等を汲み取れるように努めている。</p>	<p>日々の会話の中から本人の気持ちを聞いたり、生活の中から意向をくみ取ったりしている。利用者それぞれの意向や希望などは、朝夕のミーティングや週1回行われるカンファレンス等で話し合い職員間で共有している。</p>	
24	(9-2)	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居の際にセンター方式一部の記入をいただき、これまでの生活や暮らし方などをお聞きしている。また、面会時などご家族との会話を通じてお聞きするなどしている。</p>	<p>利用開始時に本人や家族からセンター方式のアセスメントシートを記入してもらったり、自宅に訪問し必要に応じて写真を撮るなどしてこれまでの生活ぶりを把握し、入居後の生活支援や環境整備に活かしている。</p>	
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人一人の生活リズムを大事にしながら、出来ることが継続できる支援をしている。看護と連携して心身状態もチェックして現状の暮らしの把握に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、ご本人、ご家族に生活の意向をお聞きしながら、課題とケアの在り方を話し合い、介護計画に反映させている。	介護計画の作成及び更新時は本人と話し合いながら支援の方針を検討している。週1回行われるカンファレンスで一人ひとりの介護計画の実施状況の確認が行われている。介護計画に即して生活記録を詳細に記載し、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービスに対しての結果、気づきを記録し、その日のミーティングで情報を共有しながら、実践、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、本体施設との連携した活動への参加、法人内で情報交換等をして柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や、地域への施設への外出、季節の花を見に行くなど豊かな暮らしを楽しめるよう努めています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続し、関係を築いているが、ご本人の身体状態やご家族の地理的環境等で、かかりつけ医が難しい場合には、医療機関と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。	基本的には、入居以前からのかかりつけ医への受診を継続してもらうようにしている。通院の付添いは家族にお願いし、その際には、本人の状態を記載した書面と健康管理の記録票を渡している。通院が難しくなった方には、近くの往診対応可能な医療機関を紹介している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子観察の中で気付いた事があれば、看護に報告、連絡し。又看護も必要であれば、速やかにご家族連絡し、適切な受信や看護受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者への情報提供を行いながら、ご本人やご家族が安心して治療できるように努めている。また、早期退院できるようにケースワーカー等と連絡調整し、面会などを通じ、病院関係者との関係作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合などについてご家族と話合っており、状態に応じて法人内の多様なサービスと連携し、相談させていただくことを基本にしている。ご本人やご家族と十分話し合い、本人を支えるチームとして共有できるよう努めている。	入居時には、契約書と共に急変時の対応や重度化した場合の方針の説明を十分に行い、それに合わせて家族の意向も確認している。利用者の状態変化に応じて、その都度家族と話し合いを行って、できる限り意向に沿えるように配慮している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を受け、訓練も行っており、実践できるよう努めている。	本体施設と合同で救急救命法の研修を毎年行っている。併設のデイホームの看護師を講師として、グループホーム内で想定される事故等への対応方法の研修を受けており、24時間連絡や相談ができる体制ができています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、消防署の立ち合いでの防災訓練も行っている。今年度は地域の方にも参加していただき、協力していただいた。今後も協力体制を築いていきたい。	定期的に避難訓練を実施しており、平成24年度は地震から火災が発生した場合や水害など様々な場合を想定して避難訓練を行っている。運営推進会議でも災害時の対応について話し合い、避難訓練に合わせて運営推進会議を行って災害時の地域との協力体制づくりに努めている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者、おひとりお一人の人格を尊重し、排泄や入浴介助時など、プライバシーに配慮した声かけ、対応を行っている。また、目上の方という意識を持ち、命令口調や指示口調ではなく、伺う口調で対応するように心掛けている。	本体施設の研修体制が充実しており、職員は認知症の方への対応方法もきちんと学んでいる。ミーティング等でも職員間で互いにケアの仕方などを話し合うなど、利用者を尊重する姿勢が徹底されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御歩人の意見を聞いたり、「何がいいですか?」「どうしますか?」と選択できる声かけを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の時間の流れはあるが、職員間で声かけをしながら、ご利用者のペースに合わせて、支援するよう努めている。職員側のペースで過ごされる方もいられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整える。髭を剃る。衣類を選んでいただくなど、その人らしいおしゃれ、身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただくことはもちろんだが、作ることから楽しんでいただけるように、買い物から下ごしらえ、調理、後片付けまで、職員とともにやっている。また、その際にはご本人の意欲を引き出すような声かけや対応をしている。	ホームの畑で作った野菜を利用者と一緒に収穫して調理したり、近くのスーパーへ食材を買い出しに行ったり、利用者それぞれができることに応じて役割を持ち、張り合いを見いだせるよう働きかけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が十分でないと思われるご利用者には、飲み物の種類を変えてお勧めし、栄養士の協力を得て食べる量や、栄養バランス、水分量を確保していただけるよう努めている。カロリー計算は行っていない		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアが難しいと思われるご利用者には職員が介助に入らせていただき、ご自分で出来ても十分でないご利用者には仕上げ磨きを実施している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用したトイレ誘導を行うことで、トイレで排泄できるように支援している。また、一人ひとりの状態に合わせた対応で、尿失禁や放尿の軽減に努めている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるように支援している。普段から利用者の様子を見ながらタイミングをつかみ、その人に応じた声かけや誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の体質や排便の周期を確認し、運動や食事面での工夫、水分摂取の働きかけにて、便秘改善、また予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日の希望に沿うことは難しいが、入浴された際は、湯温や時間など、ご本人にお聞きしながら楽しんでいただいている。また、ご利用者の気分や体調に合わせた対応を心掛けている。	できるだけ利用者の希望に合わせて入浴できるように支援している。入浴拒否の強い方には、対応する職員を変えたり、入浴を誘うタイミングを図ったりして、気持ちよく入浴してもらえるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、職員が気をつけながら、いつでも休息して頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を1冊にまとめ、いつでも確認ができるようにしている。また看護と連携して状態の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考にして、役割や楽しみ事を等、活躍できる場面を提供するなどしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回ご利用者の希望を聞きながら外出レクの計画を立てている。また外に出たいとの希望があれば、買い物や畑仕事に職員が見守り、確認しながら外に出ていただくこともある。	利用者の希望に合わせて、散歩や食材の買い出し、畑仕事など、できる限り外へ出られるように支援している。外出が難しい方でも、外でお茶会をするなど、少しでも外の空気に触れることができよう配慮している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で管理していただけるご利用者もいられる。職員が付き添い、スーパーなどに行かれ日用品を購入されることがある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話をかけていただいたり、年賀状を出される方もいられるので状況に応じて支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング一面の窓からは田んぼや山々が見え、自然や四季を感じる事ができる。室内はあたたかみもある色使いで、季節感のある装飾や写真を掲示することで楽しんでいただいている。職員は大きな声や音を出さないように居心地良い空間作りに努めている。	リビングの大きな窓は採光が良く、明るく開放的な雰囲気がある。窓からは一面の田園風景や遠く山々を眺めることができ、季節の移り変わりを身近に感じる事ができる。ホーム内には季節に応じた装飾や写真を掲示して、利用者が外の風景ともども楽しめるよう配慮している。	基本的には、居心地の良い雰囲気の共用空間づくりがされているが、リビング内に洗濯物がそのまま干されていた。冬場は乾きにくい状況もあるであろうが、衝立等を利用して何よりも利用者が落ち着いて過ごせる環境に配慮してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やベンチを置き、独りに又、ご利用者の居室で一緒に過ごしたりされることもある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力していただき、馴染みの物などを持ち込むことで安らぎや安心感を持っていただけるように配慮している。何もなく、工夫が必要な居室もあるため気持ち良く過ごしていただけるよう努力している。	馴染みの品の持ち込みについて家族に協力を依頼している。その説明時には、口頭だけでなく、写真等も使い、目的や意義がわかりやすく伝わるよう配慮している。利用者それぞれの居室は、馴染みの品が使いやすいよう配置されており、その人らしい空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族と連絡を取り、必要なものを用意していただきながら安全に安全に出来るだけ自立して生活できるよう工夫し声掛け介助に努めている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			